

あの日の海で

133 開智未来中学高等学校 鉄道研究部

雷都は父さんが出張をしていたある日、姉である未菜と喧嘩になり、家出をしてしまった。そんなとき、父さんからメールが届き、父さんがいる茨城まで行くことになった。

雷都がスマートフォンを頼りに父さんから言われた場所に行った。道中、特急列車に乗ったときに期待と微かな不安を感じていた。

指定された場所に行くと、そこには綺麗な硝子張りの駅舎があった。

「久しぶり」

と声が聞こえると目の前には父さんがいた。

その後、父さんと一緒に駅前を巡ることになった。雷都は綺麗な硝子張りの駅舎、輝いている太平洋、久しぶりにあった父さんの明るい笑顔を見て、落ち込んだ気分がやうやうと小さくなった。

夕方になり、太平洋に輝いている夕日を眺め、2人は別れた。

特急列車で帰宅し、雷都は未菜に謝った。

その後、2人は関係が改善し、また雷都が父さんとみたあの景色を2人で見に行った。